

その他の社会貢献活動内容

ジョンソン・エンド・ジョンソンでは、さまざまな高齢者・子ども・女性・こころの4分野に重点を

高齢者への取り組み

高齢者がいつまでも輝く日々を送るために

年齢とともに身体機能が低下したり、周囲とのつながりを失うことで、不安や孤立感を持つ高齢者は少なくありません。高齢者が充実して過ごせることは、希望ある社会を形成する上で大切なこと。また、高齢者の豊かな経験と知識を共有できないことは若い世代の損失でもあります。私たちは、世代間の交流や共生をテーマにした活動を支援しています。

●世代間交流「寺子屋回想法」

高齢者と若い世代が語り合う場を設けることで、高齢者にとっては自分自身の人生を価値あるものであると再確認することにつながります。若い世代にとっては、人生の先輩から大切なことを学ぶ機会となります。お互いの存在を認め合いながらこころを支え合うことを目指しています。

また「寺子屋回想法」を全国各地へ広げていくために、その地域、その人ならではのプログラムを企画・運営できるリーダーを養成するワークショップを開催しています。(1)

支援団体：上智大学総合人間科学部 黒川研究室



未来を支える子どもたちのために

私たちは、子どもたちの健全な成長を支える活動を支援することで、子どもたちを見守りたいと考えています。

●思春期のライフスキル教育プログラム

友だちや家族との関係、タバコやドラッグへの誘惑など、青少年は日常生活でさまざまな困難に直面します。青少年が自分自身の力でその困難を乗り越えるスキルと自尊心を身につけるためのプログラム「ライオンズクエスト」の普及を図る目的で、主に小中学校の教

員や教育関係者を対象にワークショップを開催しています。(2)

支援団体：特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
<http://www.jiyd.org/>



●暴力の影響を受けた子どもたちの心理ケアプログラム

ドメスティック・バイオレンス(DV)を家庭の中で見て育った子どもたちのこころの傷の回復をはかり、暴力の連鎖を食い止めることを目的に、ケアプログラムのインストラクター養成やケアプログラムの実施、教

材の作成を行っています。(3)

支援団体：女性ネット Saya-Saya
<http://www7.plala.or.jp/saya-saya/>



女性が前向きに力を発揮するために

女性の心身の悩みに寄り添う活動をサポートすることで、女性が前向きに力を発揮し輝ける社会を目指しています。

●親学習プログラム

地域のつながりの希薄化や核家族化によって子育てが孤立化する傾向があります。母親がひとりで子育てに悩むのではなく、育児を楽しむためには、家族や地域からの協力などさまざまな支援が必要です。自分も大切にしながら、叩かず、甘やかさず、そして楽しみながら子育てするための問題解決手段である「スター・ペア

レンティング(親学習)」プログラムの普及のため、ファシリテーター養成講座を開催しています。(4)

支援団体：NPO法人
女性と子どものエンパワメント関西
<http://www.osk.3web.ne.jp/~videodoc/>



●女性の健康情報サイト

女性のからだやこころの健康に関するウェブサイト「ウーマンズヘルスウェブ」や若い女性に性や健康への意識を高めてもらうための携帯サイト「ガールズナビ」の運営支援、活字メディアによる情報の入手が困難な女性のためのウェブサイト「声の花束」での音訳参加など、女性の生活にかかわる情報発信を行っています。

ウーマンズヘルスウェブ (5) <http://jfpa.info/wh/>
ガールズナビ <http://girlsnavi.jp/>
支援団体：社団法人日本家族計画協会
<http://www.jfpa.or.jp/>
声の花束 (6) <http://www.koetaba.net/>
支援団体：社団法人日本フィランソビー協会
<http://www.philanthropy.or.jp/>



プログラムを支援しています。

置き、社員の参画によるボランティアにも取り組んでいます。



● 10代を対象にした HIV/AIDS 予防啓発

国内のHIV/AIDS感染者数は年々増え、特に10代のHIV感染予防対策が必要とされています。エイズに関する正しい知識の普及・啓発を目的に、財団法人エイズ予防財団が運営する「ティーンエージャー（10代）を対象としたHIV/AIDS予防啓発活動助成」を支援しています。平成20年度は、助成対象団体として、3団体（アデオ

ジャパン、神奈川県立高等学校性・エイズ教育実践研究会、IWATE:生と性及びエイズ教育を考える会）が選出されました。(7)

支援団体：財団法人エイズ予防財団
<http://www.jfap.or.jp/>



● ころを大切にできる社会を目指すために

精神疾患に対する社会的理解を促すための活動や自殺を防止するための活動への支援を通じて、当事者やその家族を支えています。

● ADHD*の小学生を対象とした行動学習プログラム

ADHDは、忘れっぽい、考えずに行動する、落ち着きがないといった行動が周りから理解されず、社会生活に困難をきたすことがあります。社会的に望ましい行動を子どもたち自身が習得、実践できるようになることを目的

とし、医療の専門家や臨床心理士の有志が主催する集中治療プログラムの開催をサポートしています。(8)

支援団体：久留米市サマー・トリートメント・プログラム研究会

*日本では約5%の子どもがADHD（注意欠陥/多動性障害）といわれていますが、新しく認められた障がいであるために日常生活での適切な対応方法は確立されておらず多くの親や子どもが困難を抱えています。

● ADHDの子どもをもつ親支援～ペアレントサポートプログラム～

ADHDは、幼児期に発見し適切な対応をすることができるといえるか、その後の生活の質に大きく影響します。また、一般的な子育てと異なる困難を抱える親に、適切な対応を伝えることで親の育児ストレスも軽減できます。啓発用リーフレットの配布、日本文化に

あった親支援、ソーシャルスキルのプログラム普及を図っています。(9)

支援団体：NPO 法人えじそんくらぶ
<http://www.e-club.jp/>



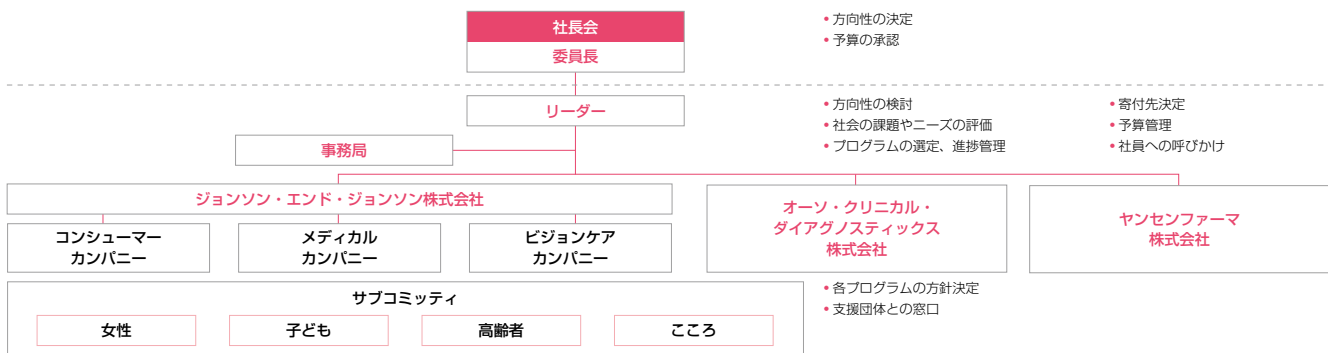
● 生きることに悩む人の声に耳を傾ける

自殺の原因はさまざまですが、誰かに話をすることで自殺以外の解決方法を見つけられることもあります。J&Jでは、相談窓口の設置や相談ボランティアの育成を通して自殺を防止する活動を支援しています。

支援団体：認定特定非営利活動法人 国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター (10)
<http://www1.odn.ne.jp/~ceq16010/hp/>

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会 組織体系

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社（メディカル カンパニー、コンシューマー カンパニー、ビジョンケア カンパニー）、オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社、ヤンセンファーマ株式会社が、共同でジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会を結成し、各グループ企業から参加する社員が中心となって活動を推進しています。



ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会は、ホームページで社会貢献活動の内容を紹介しています。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会 <http://www.jjcc.gr.jp/>